



## action (イベント) ~ rising (しきい値テスト)

---

- [action \(イベント\)](#) , 3 ページ
- [add \(bulkstat オブジェクト\)](#) , 5 ページ
- [bandwidth \(インターフェイス\)](#) , 8 ページ
- [buffer-size \(bulkstat\)](#) , 11 ページ
- [comparison](#) , 13 ページ
- [conditional object](#) , 15 ページ
- [context](#) , 17 ページ
- [context \(bulkstat\)](#) , 20 ページ
- [delta \(しきい値テスト\)](#) , 22 ページ
- [delta interval](#) , 24 ページ
- [description \(イベント\)](#) , 26 ページ
- [description \(式\)](#) , 28 ページ
- [description \(トリガー\)](#) , 30 ページ
- [discontinuity object \(式\)](#) , 32 ページ
- [enable \(bulkstat\)](#) , 34 ページ
- [enable \(イベント\)](#) , 36 ページ
- [enable \(式\)](#) , 38 ページ
- [event owner](#) , 39 ページ
- [expression](#) , 41 ページ
- [falling \(しきい値テスト\)](#) , 43 ページ

- format (bulkstat) , 45 ページ
- frequency (イベント トリガー) , 47 ページ
- id (式) , 49 ページ
- instance (MIB) , 50 ページ
- instance range, 53 ページ
- instance repetition, 55 ページ
- no snmp-server, 57 ページ
- object (式) , 58 ページ
- object id, 60 ページ
- object id (イベント トリガー) , 62 ページ
- object list, 64 ページ
- object-list, 66 ページ
- poll-interval, 68 ページ
- prefix object, 70 ページ
- retain, 71 ページ
- retry (bulkstat) , 73 ページ
- rising (しきい値テスト) , 75 ページ

## action (イベント)

イベントのアクションを設定するには、イベントコンフィギュレーションモードで **action** コマンドを使用します。イベントのアクションをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**action {set| notification}**

**no action {set| notification}**

### 構文の説明

<b>set</b>	イベントのアクションを指定します。
<b>notification</b>	イベントの通知をイネーブルにします。

### コマンド デフォルト

イベントのアクションは設定されません。

### コマンド モード

イベント コンフィギュレーション (config-event)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(20)T	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。
12.2(50)SY	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(50)SY に統合されました。

### 使用上のガイドライン

イベントの一連のアクションを設定する場合、オブジェクトのオブジェクトIDを指定できます。イベントがトリガーされるたびに、通知の送信やMIBオブジェクトの設定などのアクティビティを実行するようにイベントを設定することもできます。イベントの通知がイネーブルになっている場合、そのイベントに設定されているオブジェクトに変更が加えられるたびに、SNMP マネージャに通知が送信されます。

## 例

次に、イベントの通知をイネーブルにする例を示します。

```
Router(config)# snmp mib event owner owner1 name test
Router(config-event)# action notification
Router(config-event-action-notification)# end
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>object id</b>	オブジェクトのオブジェクトIDを指定します。
<b>snmp mib event owner</b>	管理イベントのイベント オーナーを指定します。
<b>value</b>	イベントに設定されるオブジェクトの値を指定します。
<b>wildcard</b>	式の評価に使用されるオブジェクトをイベント設定時にワイルドカード化するかどうかを指定します。

## add (bulkstat オブジェクト)

バルク統計情報オブジェクトリストに MIB オブジェクトを追加するには、バルク統計情報オブジェクトリスト コンフィギュレーション モードで **add** コマンドを使用します。SNMP バルク統計情報オブジェクトリストから MIB オブジェクトを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**add** {*object-name*|*oid*}

**no add** {*object-name*|*oid*}

### 構文の説明

<i>object-name</i>	リストに追加する MIB オブジェクトの名前。 インターフェイス MIB (IF-MIB.my)、Cisco 専用アクセス レート MIB (CISCO-CAR-MIB.my)、および MPLS トラフィック エンジニアリング MIB (MPLS-TE-MIB.my) からのオブジェクト名だけを使用できます。
<i>oid</i>	リストに追加する MIB オブジェクトのオブジェクト ID (OID)。インターフェイス MIB (IF-MIB.my)、Cisco 専用アクセス レート MIB (CISCO-CAR-MIB.my)、および MPLS トラフィック エンジニアリング MIB (MPLS-TE-MIB.my) からの OID だけを使用できます。

### コマンド デフォルト

MIB オブジェクトはバルク統計情報オブジェクトリストに追加されません。

### コマンド モード

バルク統計情報オブジェクトリスト コンフィギュレーション (config-bulk-objects)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.0(24)S	このコマンドが導入されました。
12.3(2)T	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.3(2)T に統合されました。
12.2(25)S	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(25)S に統合されました。

リリース	変更内容
12.2(33)SRA	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRA に統合されました。
12.2(33)SXH	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SXH に統合されました。
12.2(33)SB	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SB に統合されました。
Cisco IOS XE Release 2.1	このコマンドが、Cisco IOS XE Release 2.1 に統合されました。

### 使用上のガイドライン

オブジェクトリスト内のすべてのオブジェクトは、同じMIBインデックスによって指標付けする必要がありますが、同じMIBテーブルに属する必要はありません。たとえば、ifInoctets およびイーサネット MIB オブジェクトを同じスキーマでグループ化できます。これは、含まれているテーブルが (IF-MIB の) ifIndex によって指標付けされるからです。

オブジェクト名は関連MIBモジュールで使用できます。たとえば、インターフェイスの入力バイト数は、インターフェイスグループMIB (IF-MIB.my) で定義されています。完全なMIBモジュールは、Cisco.com の <http://www.cisco.com/public/sw-center/netmgmt/cmtk/mibs.shtml> からダウンロードできます。

### 例

次の例では、2つのバルク統計情報オブジェクトリストを設定します。1つはIF-MIB オブジェクト用、もう1つはCISCO-CAR-MIB オブジェクト用です。IF-MIB オブジェクトおよびCISCO-CAR-MIB オブジェクトには同じ指標がないため、個々のオブジェクトリストで定義する必要があります。

```
Router(config)# snmp mib bulkstat object-list if-Objects
Router(config-bulk-objects)# add ifInoctets
Router(config-bulk-objects)# add ifOutoctets

Router(config-bulk-objects)# add ifInUcastPkts

Router(config-bulk-objects)# add ifInDiscards

Router(config-bulk-objects)# exit

Router(config)# snmp mib bulkstat object-list CAR-Objects
Router(config-bulk-objects)# add CcarStatSwitchedPkts

Router(config-bulk-objects)# add ccarStatSwitchedBytes

Router(config-bulk-objects)# add CcarStatFilteredBytes

Router(config-bulk-objects)# exit

Router(config)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>snmp mib bulkstat object-list</b>	バルク統計情報オブジェクトリストを指定し、バルク統計情報オブジェクトリスト コンフィギュレーションモードを開始します。

## bandwidth (インターフェイス)

インターフェイスの継承帯域幅値および受信帯域幅値を設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードまたは仮想ネットワーク インターフェイス コンフィギュレーション モードで **bandwidth** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**bandwidth** [receive] {*kbps*| **inherit** [*kbps*]}

**no bandwidth** [receive] {*kbps*| **inherit** [*kbps*]}

### 構文の説明

<i>kbps</i>	意図する帯域幅 (キロビット/秒)。範囲は 1 ~ 10000000 です。全帯域幅 DS3 回線の場合、値 44736 を入力します。
<b>inherit</b>	(任意) サブインターフェイスがメイン インターフェイスの帯域幅を継承する方法を指定します。
<b>receive</b>	(任意) 送信 ( <b>inherit</b> <i>kbps</i> ) 帯域幅と受信帯域幅が異なるように、非対称送受信操作をイネーブルにします。

### コマンド デフォルト

帯域幅のデフォルト値は、起動時に設定されます。帯域幅の値は、**show interfaces** コマンドまたは **show ipv6 interface** コマンドを使用して表示できます。**receive** キーワードを使用しない場合、デフォルトでは、送受信帯域幅には同じ値が割り当てられます。

### コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

仮想ネットワーク インターフェイス (config-if-vnet)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
10.0	このコマンドが導入されました。
12.2T	このコマンドが変更されました。 <b>inherit</b> キーワードが追加されました。
12.4(6)T	このコマンドが変更されました。IPv6 のサポートが追加されました。



リリース	変更内容
12.2(33)SRA	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRA に統合されました。
12.2SX	このコマンドは、Cisco IOS Release 12.2SX トレインでサポートされません。このトレインの特定の 12.2SX リリースにおけるサポートは、フィチャセット、プラットフォーム、およびプラットフォームハードウェアによって異なります。
Cisco IOS XE Release 2.1	このコマンドが Cisco ASR 1000 集約サービス シリーズ ルータに実装されました。
Cisco IOS XE Release 3.2S	このコマンドが変更されました。仮想ネットワーク インターフェイス コンフィギュレーション モードにおけるこのコマンドのサポートが追加されました。
15.1(03)S	このコマンドが変更されました。 <b>receive</b> キーワードのサポートが追加されました。

## 使用上のガイドライン 帯域幅情報

**bandwidth** コマンドは、上位プロトコルに現在の帯域幅を伝えるためだけに使用される情報パラメータを設定します。このコマンドを使用してインターフェイスの実際の帯域幅を調整することはできません。



(注) これは単なるルーティングパラメータです。物理インターフェイスには影響しません。

### 帯域幅の変更

イーサネットなどの一部のメディアでは、帯域幅が固定され、シリアル回線などの他のメディアでは、ハードウェアを調整して実際の帯域幅を変更できます。メディアの両方のクラスについて、**bandwidth** コマンドを使用して、現在の帯域幅を上位レベルのプロトコルに伝達できます。

### 帯域幅の継承

**bandwidth inherit** コマンドオプションが導入されるまでは、帯域幅値をメインインターフェイスで変更すると、既存のサブインターフェイスで帯域幅値が継承されませんでした。帯域幅をメインインターフェイスで変更する前にサブインターフェイスを作成すると、サブインターフェイスはメインインターフェイスのデフォルトの帯域幅を受信し、設定された帯域幅を受信しません。また、ルータが後でリロードされた場合、サブインターフェイスの帯域幅は、メインインターフェイスに設定された帯域幅に変更されます。

**bandwidth inherit** コマンドは、サブインターフェイスがメインインターフェイスの帯域幅を継承する方法を制御します。この機能は、ルータがリロードされたかどうか、およびコマンドの入力順に関連する矛盾を回避します。

**no bandwidth inherit** コマンドを使用すると、すべてのサブインターフェイスは、設定された帯域幅に関係なく、メインインターフェイスのデフォルトの帯域幅を継承できるようになります。

**bandwidth inherit** コマンドは、サブインターフェイスに帯域幅を設定せずに使用され、すべてのサブインターフェイスがメインインターフェイスの現在の帯域幅を継承します。メインインターフェイスに新しい帯域幅を設定すると、すべてのサブインターフェイスはこの新しい値を使用します。

サブインターフェイスに帯域幅を設定せずに、メインインターフェイスに **bandwidth inherit kbps** コマンドを設定すると、サブインターフェイスは指定された帯域幅を継承します。

どのような場合でも、帯域幅が明示的に設定されているインターフェイスでは、帯域幅の継承が有効であるかどうかに関係なく、その設定が使用されます。

### 帯域幅の受信

一部のインターフェイス（非対称デジタル加入者線（ADSL）、V.35、RS-449、および High-Speed Serial Interface（HSSI）など）は、送信帯域幅と受信帯域幅が異なる状態で動作できます。**bandwidth receive** コマンドは、このタイプの非対称動作を許可します。たとえば、ADSL の場合、下位レイヤは2つの帯域幅値を検出し、統合データベース（IDB）をその値に従って設定します。他のインターフェイスドライバ、特にローレンジおよびミッドレンジプラットフォームのシリアルインターフェイスは、この非対称帯域幅モードで動作できますが、クロックレートを測定できません。このような場合、非対称動作の管理設定が必要です。

### 例

次に、DS3 送信に全帯域幅を設定する例を示します。

```
Router(config)# interface serial 0
Router(config-if)# bandwidth 44736
```

次に、受信帯域幅を設定する例を示します。

```
Router(config)# interface serial 0
Router(config-if)# bandwidth receive 1000
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show interfaces</b>	ルータで設定されたすべてのインターフェイスの統計情報を表示します。
<b>show ipv6 interface</b>	IPv6 ルータで設定されたすべてのインターフェイスの統計情報を表示します。

## buffer-size (bulkstat)

バルク統計情報ファイルの転送の最大バッファサイズを設定するには、バルク統計情報転送コンフィギュレーションモードで **buffer-size** コマンドを使用します。以前に設定したバッファサイズをコンフィギュレーションから削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**buffer-size** *bytes*

**no buffer-size**

### 構文の説明

<i>bytes</i>	バルク統計情報の転送バッファサイズ (バイト単位)。有効な範囲は 1024 ~ 2147483647 です。デフォルトは 2048 です。
--------------	---

### コマンド デフォルト

デフォルトのバルク統計情報転送バッファは 2048 バイトです。

### コマンド モード

バルク統計情報転送コンフィギュレーション (config-bulk-tr)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.0(24)S	このコマンドが導入されました。
12.3(2)T	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.3(2)T に統合されました。
12.2(25)S	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(25)S に統合されました。
12.2(33)SRA	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRA に統合されました。
12.2(33)SXH	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SXH に統合されました。
12.2(33)SB	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SB に統合されました。
Cisco IOS XE Release 2.1	このコマンドが、Cisco IOS XE Release 2.1 に統合されました。

**使用上のガイドライン** 設定されたバッファサイズの制限は、主に安全機能として利用できます。通常のパルク統計情報ファイルは、一般的に、転送中にデフォルト値を満たしたり超えてはいけません。

**例** 次の例では、パルク統計情報転送のバッファサイズは 3072 バイトに設定されます。

```
Router(config)# snmp mib bulkstat transfer bulkstat1
Router(config-bulk-tr)# schema ATM2/0-IFMIB
Router(config-bulk-tr)# url primary ftp://user:pswr@host/folder/bulkstat1
Router(config-bulk-tr)# buffer-size 3072
Router(config-bulk-tr)# enable
Router(config-bulk-tr)# exit
Router(config)#
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>snmp mib bulkstat transfer</b>	転送設定を名前で識別し、パルク統計情報転送コンフィギュレーションモードを開始します。

## comparison

実行するブール値比較のタイプを指定するには、イベントトリガーテストブール値コンフィギュレーションモードで **comparison** コマンドを使用します。指定した比較値をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**comparison** {equal| greatOrEqual| greater| lessOrEqual| lesser| unequal}

**no comparison**

### 構文の説明

<b>equal</b>	ブール値比較のタイプを等しいとして指定します。
<b>greatOrEqual</b>	ブール値比較のタイプを等しいかより大きいとして指定します。
<b>greater</b>	ブール値比較のタイプをより大きいとして指定します。
<b>lessOrEqual</b>	ブール値比較のタイプを等しいかより小さいとして指定します。
<b>lesser</b>	ブール値比較のタイプをより小さいとして指定します。
<b>unequal</b>	ブール値比較のタイプを等しくないとして指定します。

### コマンド デフォルト

ブール値テストのデフォルトの比較値は **unequal** です。

### コマンド モード

イベントトリガーテストブール値コンフィギュレーション (config-event-trigger-boolean)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(20)T	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。

リリース	変更内容
12.2(50)SY	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(50)SY に統合されました。

**使用上のガイドライン** 指定した値は、トリガー テスト中にブール値比較に使用されます。

#### 例

次に、ブール値テストに比較値を指定する例を示します。

```
Router(config)# snmp mib event trigger owner owner1 name triggerA
Router(config-event-trigger)# test boolean
Router(config-event-trigger-boolean)# comparison unequal
Router(config-event-trigger-boolean)# end
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>test boolean</b>	ブール値トリガーテストのパラメータを設定します。

## conditional object

式を評価するときに条件オブジェクトを定義するには、式オブジェクト コンフィギュレーション モードで **conditional object** コマンドを使用します。設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**conditional object** *conditional-object-id* [**wildcard**]

**no conditional object**

### 構文の説明

<i>conditional-object-id</i>	式を評価するための条件オブジェクト ID。 <ul style="list-style-type: none"> <li>条件オブジェクト ID は数値で指定します。</li> </ul>
<b>wildcard</b>	(任意) 条件オブジェクト ID のワイルドカード検索をイネーブルにします。

### コマンド デフォルト

デフォルトでは、条件オブジェクト ID は定義されていません。

### コマンド モード

式オブジェクト コンフィギュレーション (config-expression-object)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(20)T	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。
Cisco IOS XE Release 3.1S	このコマンドが、Cisco IOS XE Release 3.1S に統合されました。
12.2(50)SY	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(50)SY に統合されました。

### 使用上のガイドライン

オブジェクト ID は、式を評価するときに考慮するオブジェクトのインスタンスを指定します。オブジェクトにインスタンスがない場合、オブジェクト ID に指定された値は使用されません。条件オブジェクトは、オブジェクト ID に指定された値の使用を決定します。

## 例

次に、条件オブジェクトを指定する例を示します。

```
Router(config)# snmp mib expression owner owner1 name Expression1
Router(config-expression)# object 32
Router(config-expression-object)# conditional object
mib-2.90.1.3.1.1.2.3.112.99.110.4.101.120.112.53
Router(config-expression-object)# end
```

次に、条件オブジェクト ID のワイルドカード検索をイネーブルにする例を示します。

```
Router(config-expression-object)# conditional object mib-2.5 wildcard
Router(config-expression-object)# end
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>snmp mib expression owner</b>	式のオーナーを指定します。



# context



(注) Cisco IOS Release 15.0(1)M では、**context** コマンドが、**snmp context** コマンドに置き換えられました。詳細については、**snmp context** コマンドを参照してください。

特定の VPN ルーティングおよび転送 (VRF) インスタンスに簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) のコンテキストを関連付けるには、VRF コンフィギュレーションモードで **context** コマンドを使用します。VPN から SNMP コンテキストの関連付けを解除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**context** *context-name*

**no context**

## 構文の説明

<i>context-name</i>	SNMP VPN コンテキストの名前。名前には 32 文字以内の英数字を使用できます。
---------------------	---

## コマンド デフォルト

SNMP コンテキストは、VPN に関連付けられません。

## コマンド モード

VRF コンフィギュレーション (config-vrf)

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.0(23)S	このコマンドが導入されました。
12.3(2)T	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.3(2)T に統合されました。
12.2(25)S	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(25)S に統合されました。
12.2(33)SRA	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRA に統合されました。
12.2(31)SB2	このコマンドは、Cisco IOS Release 12.2(31)SB2 に統合されました。
12.2(33)SRB	このコマンドが変更されました。IPv6 のサポートが追加されました。

リリース	変更内容
12.2SX	このコマンドは、Cisco IOS Release 12.2SX トレインでサポートされません。このトレインの特定の 12.2SX リリースにおけるサポートは、フィーチャセット、プラットフォーム、およびプラットフォームハードウェアによって異なります。
12.2(33)SB	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SB に統合されました。
15.0(1)M	このコマンドは、 <b>snmp context</b> コマンドに置き換えられました。

**使用上のガイドライン** VPN に SNMP コンテキストを関連付ける **context** コマンドを使用する前に、以下を実行してください。

- **snmp-server context** コマンドを発行して、SNMP コンテキストを作成します。
- その VPN の特定の MIB データがコンテキストに存在するようにコンテキストに VPN を関連付けます。
- **snmp-server group** コマンドの **context context-name** キーワード引数ペアを使用して、VPN のコンテキストに VPN グループを関連付けます。

SNMP コンテキストによって、MIB データにアクセスする安全な方法が VPN ユーザに提供されます。VPN がコンテキストに関連付けられると、その VPN の MIB データはそのコンテキストに存在します。VPN をコンテキストに関連付けると、サービスプロバイダーが、複数 VPN でネットワークを管理できます。コンテキストを作成して VPN に関連付けることにより、プロバイダーは、ある VPN のユーザが同じネットワークデバイス上で他の VPN のユーザに関する情報にアクセスするのを防ぐことができます。

ルート識別子 (RD) は、SNMP コンテキストを設定するために必要です。RD はルーティングテーブルと転送テーブルを作成し、VPN のデフォルトルート識別子を指定します。RD は、グローバルに一意にするために IPv4 プレフィックスの先頭に追加されます。RD は、自律システム番号 (ASN) 関連で、自律システム番号と任意の番号で構成されるか、または IP アドレス関連で、IP アドレスと任意の番号で構成されます。

#### 例

次に、**context1** という名前の SNMP コンテキストを作成し、**vrf1** という名前の VRF にコンテキストを関連付ける例を示します。

```
Router(config)# snmp-server context context1
Router(config)# ip vrf vrf1
Router(config-vrf)# rd 100:120
Router(config-vrf)# context context1
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>ip vrf</b>	VRF 設定のために VRF コンフィギュレーションモードを開始します。
<b>snmp mib community-map</b>	SNMP コミュニティを SNMP コンテキスト、エンジン ID、またはセキュリティ名にマッピングします。
<b>snmp mib target list</b>	SNMP v1 または v2c コミュニティに関連付けるターゲット VRF とホストのリストを作成します。
<b>snmp-server context</b>	SNMP コンテキストを作成します。
<b>snmp-server group</b>	新規 SNMP グループ、または SNMP ユーザを SNMP ビューにマッピングするテーブルを設定します。
<b>snmp-server trap authentication vrf</b>	VRF 固有の SNMP 認証失敗通知を制御します。
<b>snmp-server user</b>	SNMP グループに新しいユーザを設定します。

## context (bulkstat)

バルク統計情報スキーマに簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) のコンテキストを関連付けるには、バルク統計情報スキーマ コンフィギュレーション モードで **context** コマンドを使用します。バルク統計情報スキーマから SNMP コンテキストの関連付けを解除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**context** *context-name*

**no context**

### 構文の説明

<i>context-name</i>	バルク統計情報スキーマに関連付ける SNMP コンテキストの名前。
---------------------	-----------------------------------

### コマンド デフォルト

SNMP コンテキストはバルク統計情報スキーマに関連付けられていません。

### コマンド モード

バルク統計情報スキーマ コンフィギュレーション (config-bulk-sc)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(33)SRC	このコマンドが導入されました。
12.2(50)SY	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(50)SY に統合されました。

### 使用上のガイドライン

**snmp mib bulkstat schema** コマンドを使用してバルク統計情報スキーマ コンフィギュレーション モードを開始し、**context** コマンドを使用してバルク統計情報スキーマに SNMP コンテキストを関連付けます。

### 例

次に、ctx という名前の SNMP コンテキストを作成し、バルク統計情報スキーマにコンテキストを関連付ける例を示します。

```
Router(config)# snmp mib bulkstat schema sch
Router(config-bulk-sc)# context ctx
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>snmp mib bulkstat schema</b>	SNMP バルク統計情報スキーマを指定し、バルク統計情報スキーマ コンフィギュレーションモードを開始します。

## delta (しきい値テスト)

しきい値トリガー テストのデルタ値を指定するには、イベント トリガーしきい値コンフィギュレーション モードで **delta** コマンドを使用します。設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**delta** {**falling**| **rising**} {*threshold-value*| **event owner** *event-owner name* *event-name*}

**no delta** {**falling**| **rising**}

### 構文の説明

<b>falling</b>	下限しきい値のデルタ値を指定します。
<b>rising</b>	上昇しきい値のデルタ値を指定します。
<i>threshold-value</i>	しきい値のデルタ値。デフォルト値は 0 です
<b>event</b>	イベントを指定します。
<b>owner</b>	イベント オーナーを指定します。
<i>event-owner</i>	イベント オーナーの名前。
<b>name</b>	イベントの名前を指定します。
<i>event-name</i>	イベントの名前。

### コマンド デフォルト

デルタしきい値は 0 に設定され、イベントはデフォルトでは呼び出されません。

### コマンド モード

イベント トリガーしきい値コンフィギュレーション (config-event-trigger-threshold)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(20)T	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。
12.2(50)SY	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(50)SY に統合されました。

**使用上のガイドライン** **delta** コマンドは、オブジェクトのサンプリング方式がデルタの場合に指定された値にデルタ下限または上昇しきい値を設定します。 **delta rising event owner** コマンドは、デルタ上昇しきい値がトリガーされたときに実行されるイベントを指定します。同様に、 **delta falling event owner** コマンドは、デルタ下限しきい値がトリガーされたときに実行されるイベントを指定します。

**例**

次に、デルタ下限しきい値を指定する例を示します。

```
Router(config)# snmp mib event trigger owner owner1 name triggerA
Router(config-event-trigger)# test threshold
Router(config-event-trigger-threshold)# delta falling 20
Router(config-event-trigger-threshold)# end
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>test</b>	イベントトリガー中に実行されるテストのタイプを指定します。

## delta interval

式の評価中に使用するオブジェクトのデルタ サンプリングの間隔を指定するには、式コンフィギュレーションモードで **delta interval** コマンドを使用します。設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**delta interval** *seconds*

**no delta interval**

### 構文の説明

<i>seconds</i>	デルタ サンプリング間隔の秒数。デフォルトは 0 です。
----------------	------------------------------

### コマンド デフォルト

デフォルトのデルタ サンプリング間隔は 0 です。

### コマンド モード

式コンフィギュレーション (config-expression)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(20)T	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。
12.2(50)SY	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(50)SY に統合されました。

### 使用上のガイドライン

デルタ サンプリング方式に設定されているオブジェクトがない場合、**delta interval** コマンドは、インターバルを設定しません。

### 例

次に、デルタ間隔を 60 秒に設定する例を示します。

```
Router(config)# snmp mib expression owner owner1 name expressionA
Router(config-expression)# delta interval 60
Router(config-expression)# end
```



## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>snmp mib expression owner</b>	式のオーナーを指定します。

## description (イベント)

イベントの機能と用途を説明するには、イベント コンフィギュレーション モードで **description** コマンドを使用します。説明を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**description event-description**

**no description**

### 構文の説明

<i>event-description</i>	<p>イベントの機能と用途の説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>説明のテキスト スtring は 256 文字まで指定できます。String に空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。</li> </ul>
--------------------------	---

### コマンド デフォルト

デフォルトでは、イベントは説明されていません。

### コマンド モード

イベント コンフィギュレーション (config-event)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(20)T	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。
12.2(50)SY	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(50)SY に統合されました。

### 使用上のガイドライン

**description** コマンドでは、イベントの機能と用途のフリーテキストの説明を設定します。

### 例

次の例に、イベントを説明する方法を示します。

```
Router(config)# snmp mib event owner owner1 name EventA
Router(config-event)# description "EventA is an RMON event"
Router(config-event)# end
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>snmp mib event owner</b>	管理イベントのイベントオーナーを指定します。

## description (式)

式の用途の説明を入力するには、式コンフィギュレーションモードで **description** コマンドを使用します。説明を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**description** *expression-description*

**no description**

### 構文の説明

<i>expression-description</i>	式の機能と用途の説明。説明のテキストストリングは 256 文字まで指定できます。
-------------------------------	--

### コマンド デフォルト

デフォルトでは、式は説明されていません。

### コマンド モード

式コンフィギュレーション (config-expression)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(20)T	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。
12.2(50)SY	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(50)SY に統合されました。

### 使用上のガイドライン

**description** コマンドでは、式の機能と用途のフリーテキストの説明を設定します。

### 例

次に、式の説明方法を示します。

```
Router(config)# snmp mib expression owner owner1 name expressionA
Router(config-expression)# description expressionA is created for the sysLocation MIB object
Router(config-expression)# end
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>snmp mib expression owner</b>	式のオーナーを指定します。

## description (トリガー)

イベントトリガーの機能と用途を説明するには、イベントトリガーコンフィギュレーションモードで **description** コマンドを使用します。説明を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**description** *trigger-description*

**no description**

### 構文の説明

<i>trigger-description</i>	トリガーの機能と用途の説明。  • 説明のテキスト スtring は 256 文字まで指定できます。
----------------------------	--

### コマンド デフォルト

デフォルトでは、トリガーは説明されていません。

### コマンド モード

イベント トリガーコンフィギュレーション (config-event-trigger)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(20)T	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。
12.2(50)SY	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(50)SY に統合されました。

### 使用上のガイドライン

**description** コマンドでは、イベント トリガーの機能と用途のフリーテキストの説明を設定します。

### 例

次に、イベント トリガーの説明方法を示します。

```
Router(config)# snmp mib event trigger owner owner1 name triggerA
Router(config-event-trigger)# description triggerA is configured for network management
```

```
events
Router(config-event-trigger) # end
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>snmp mib event trigger owner</b>	管理イベントトリガー情報の設定中にイベントトリガーのオーナーを指定します。

## discontinuity object (式)

オブジェクトの不連続プロパティを定義するには、式オブジェクトコンフィギュレーションモードで **discontinuity object** コマンドを使用します。設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**discontinuity object** *discontinuity-object-id* [**wildcard**] [**type** {**timeticks**|**timestamp**|**date-and-time**}]  
**no discontinuity object**

### 構文の説明

<i>discontinuity-object-id</i>	カウンタの不連続を識別する不連続オブジェクト ID。  • デフォルトのオブジェクト ID は、sysUpTime.0 です。
<b>wildcard</b>	(任意) オブジェクト ID をワイルドカード化するか、完全に指定するかを指定します。  • デフォルトでは、オブジェクト ID は完全に指定されます。
<b>type</b>	(任意) カウンタの不連続のタイプを指定します。  • 不連続タイプのデフォルト値は <b>timeticks</b> です。
<b>timeticks</b>	(任意) カウンタの不連続の <b>timeticks</b> を指定します。
<b>timestamp</b>	(任意) カウンタの不連続のタイムスタンプを指定します。
<b>date-and-time</b>	(任意) カウンタの不連続の日時を指定します。

コマンド デフォルト      デフォルトの不連続オブジェクト ID は、sysUpTime.0 です。

コマンド モード      式オブジェクト コンフィギュレーション (config-expression)



## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(20)T	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。
12.2(50)SY	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(50)SY に統合されました。

## 使用上のガイドライン

**discontinuity object** コマンドは、オブジェクト サンプリング タイプがデルタまたは変更されたときのオブジェクトの不連続プロパティを設定します。

## 例

次に、オブジェクトの不連続プロパティを設定する例を示します。

```
Router(config)# snmp mib expression owner owner1 name ExpressionA
Router(config-expression)# object 43
Router(config-expression-object)# discontinuity object 0.7
Router(config-expression-object)# end
```

次に、不連続オブジェクト ID のワイルドカード検索をイネーブルにする例を示します。

```
Router(config-expression-object)# discontinuity object 0.7 wildcard
Router(config-expression-object)# end
```

次に、カウンタの不連続のタイプを指定する例を示します。

```
Router(config-expression-object)# discontinuity object 0.7 type timeticks
Router(config-expression-object)# end
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>snmp mib expression owner</b>	式のオーナーを指定します。

## enable (bulkstat)

特定のバルク統計情報設定のバルク統計情報データ収集と転送プロセスを開始するには、バルク統計情報転送コンフィギュレーションモードで **enable** コマンドを使用します。特定のバルク統計情報設定のバルク統計情報データ収集と転送プロセスをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**enable**

**no enable**

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

バルク統計情報転送はディセーブルです。

### コマンド モード

バルク統計情報転送コンフィギュレーション (config-bulk-tr)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.0(24)S	このコマンドが導入されました。
12.3(2)T	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.3(2)T に統合されました。
12.2(25)S	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(25)S に統合されました。
12.2(33)SRA	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRA に統合されました。
12.2(33)SXH	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SXH に統合されました。
12.2(33)SB	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SB に統合されました。
Cisco IOS XE Release 2.1	このコマンドが、Cisco IOS XE Release 2.1 に統合されました。

### 使用上のガイドライン

特定のバルク統計情報設定は、**snmp mib bulkstat transfer** コマンドで指定した名前でも識別されません。 **enable** コマンド (バルク統計情報転送コンフィギュレーションモード) は、定期的な MIB データ収集と転送プロセスを開始します。

このコマンドが使用されている場合だけ収集（およびそれ以降のファイル転送）が開始されます。逆に、**no enable** コマンドが設定されていると、収集プロセスが停止します。その後、**enable** コマンドを発行すると、動作が再開します。

**enable** コマンドによって収集プロセスが開始されるたびに、新しいバルク統計情報ファイルにデータが収集されます。**no enable** コマンドを使用すると、収集したデータの転送プロセスがただちに開始されます（つまり、既存のバルク統計情報ファイルが指定した管理ステーションに転送されます）。

正常にバルク統計情報設定をイネーブルにするには、ゼロ個以外のオブジェクトを備えた少なくとも 1 つのスキーマを設定する必要があります。

## 例

次の例では、`bulkstat1` という名前のバルク統計情報設定をイネーブルにしています。

```
Router(config)# snmp mib bulkstat transfer bulkstat1
Router(config-bulk-tr)# schema ATM2/0-IFMIB
Router(config-bulk-tr)# url primary ftp://user:pswr@host/folder/bulkstat1
Router(config-bulk-tr)# enable
Router(config-bulk-tr)# exit
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>snmp mib bulkstat transfer</b>	バルク統計情報転送設定を指定し、バルク統計情報転送コンフィギュレーションモードを開始します。

## enable (イベント)

イベントまたはイベント トリガーをイネーブルにするには、イベントまたはイベント トリガー コンフィギュレーション モードでそれぞれ **enable** コマンドを使用します。 イベントをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**enable**

**no enable**

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

イベントはデフォルトでイネーブルになっていません。

### コマンド モード

イベント コンフィギュレーション (config-event)

イベント トリガー コンフィギュレーション (config-event-trigger)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(20)T	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。
12.2(50)SY	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(50)SY に統合されました。

### 使用上のガイドライン

イベントがイネーブルでない場合、トリガーされても実行されません。

### 例

次に、イベントをイネーブルにする例を示します。

```
Router(config)# snmp mib event owner owner1 name EventA
Router(config-event)# enable
Router(config-event)# end
```

次に、イベント トリガーをイネーブルにする例を示します。

```
Router(config)# snmp mib event trigger owner owner1 name triggerA
Router(config-event-trigger)# enable
Router(config-event-trigger)# end
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>snmp mib event owner</b>	管理イベントのオーナーを指定します。
<b>snmp mib event trigger owner</b>	管理イベントトリガー情報の設定中にイベントトリガーのオーナーを指定します。

## enable (式)

式をイネーブルにするには、式コンフィギュレーションモードで **enable** コマンドを使用します。式をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**enable**

**no enable**

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

式はデフォルトでイネーブルになっていません。

### コマンド モード

式コンフィギュレーション (config-expression)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(20)T	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。
12.2(50)SY	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(50)SY に統合されました。

### 使用上のガイドライン

**enable** コマンドは、評価の式をイネーブルにします。

### 例

次に、式をイネーブルにする例を示します。

```
Router(config)# snmp mib expression owner owner1 name ExpressionA
Router(config-expression)# enable
Router(config-expression)# end
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>snmp mib expression owner</b>	式を指定します。

## event owner

トリガーのトリガー タイプおよびステータスに基づいてイベントトリガーにイベント オーナーを指定するには、イベントトリガー存在またはイベントトリガーブール値コンフィギュレーションモードで **event owner** コマンドを使用します。設定をディセーブルにしてデフォルトパラメータを設定するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**event owner** *event-owner* **name** *event-name*

**no event owner**

### 構文の説明

<i>event-owner</i>	イベントのオーナー。
<b>name</b>	イベントの名前を示します。
<i>event-name</i>	イベントの一意の名前。

### コマンド デフォルト

イベント オーナーおよびイベント名は指定されません。

### コマンド モード

イベント トリガー存在コンフィギュレーション (config-event-trigger-existence)

イベント トリガー ブール値コンフィギュレーション (config-event-trigger-boolean)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(20)T	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。
12.2(50)SY	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(50)SY に統合されました。

### 使用上のガイドライン

イベントは、*event-owner* および *event-name* 値によって識別され、**snmp mib event** コマンドを使用して設定されます。イベントは、**enable** コマンドの使用によりイネーブルにされます。

## 例

次に、存在トリガー テストのためにイベント オーナーを指定する例を示します。

```
Router(config)# snmp mib event trigger owner owner1 name triggerA
Router(config-event-trigger)# test existence
Router(config-event-trigger-existence)# event owner owner2 name event2
Router(config-event-trigger-existence)# end
```

次に、ブール値トリガー テストのためにイベント オーナーを指定する例を示します。

```
Router(config)# snmp mib event trigger owner owner1 name triggerA
Router(config-event-trigger)# test boolean
Router(config-event-trigger-boolean)# event owner owner2 name event2
Router(config-event-trigger-boolean)# end
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>snmp mib event trigger owner</b>	管理イベントトリガー情報の設定中にイベントトリガーのオーナーを指定します。
<b>test boolean</b>	ブール値トリガーテストのパラメータを設定します。
<b>test existence</b>	存在トリガー テストのパラメータを設定します。



# expression

評価の式を指定するには、式コンフィギュレーション モードで **expression** コマンドを使用します。設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**expression** *expression*

**no expression**

## 構文の説明

*expression*

評価する式。

## コマンド デフォルト

デフォルトでは、式は設定されていません。

## コマンド モード

式コンフィギュレーション (config-expression)

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(20)T	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。
12.2(50)SY	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(50)SY に統合されました。

## 使用上のガイドライン

式は、変数名を除いて ANSIC の構文にあります。変数は、\$ (ドル記号) とオブジェクト番号に対応する整数で表現されます。式の一例は、 $(\$1-\$5)*100$  です。

## 例

次に、式を指定する例を示します。

```
Router(config)# snmp mib expression owner owner1 name expressionA
Router(config-expression)# expression ($1+$2)*800/$3
Router(config-expression)# end
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>snmp mib expression owner</b>	式のオーナーを指定します。

## falling (しきい値テスト)

しきい値トリガーテストの下限しきい値を指定するには、イベントトリガーしきい値コンフィギュレーションモードで **falling** コマンドを使用します。指定したしきい値をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**falling** {*threshold-value* | **event owner** *event-owner name* *event-name*}

**no falling**

### 構文の説明

<i>threshold-value</i>	下限しきい値を表す数値。デフォルト値は0です
<b>event</b>	イベントを指定します。
<b>owner</b>	イベント オーナーを指定します。
<i>event-owner</i>	イベント オーナーの名前。
<b>name</b>	イベントの名前を示します。
<i>event-name</i>	イベントの名前。

### コマンド デフォルト

デフォルトの下限しきい値は **0** です。イベントはデフォルトでは呼び出されません。

### コマンド モード

イベント トリガーしきい値コンフィギュレーション (config-event-trigger-threshold)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(20)T	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。
12.2(50)SY	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(50)SY に統合されました。

**使用上のガイドライン** 指定した下限しきい値は、しきい値トリガーがアクティブなときに検証されます。サンプル値が指定した値以下で、最後のサンプリング間隔の値よりも大きい場合、対応するトリガーが生成されます。

**falling event owner** コマンドは、下限しきい値がトリガーされたときに実行されるイベントを指定します。イベントは、オーナーおよび名前によって識別され、**snmp mib event owner** コマンドを使用して設定されます。

**例** 次に、下限しきい値 12 を指定する例を示します。

```
Router(config)# snmp mib event trigger owner owner1 name triggerA
Router(config-event-trigger)# test threshold
Router(config-event-trigger-threshold)# falling 12
Router(config-event-trigger-threshold)# end
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>test</b>	トリガー テストをイネーブルにします。

## format (bulkstat)

バルク統計情報データファイルに使用される形式を指定するには、バルク統計情報転送コンフィギュレーションモードで **format** コマンドを使用します。以前に設定した形式指定をディセーブルにし、デフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**format** {bulkBinary| bulkASCII| schemaASCII}

**no format**

### 構文の説明

<b>bulkBinary</b>	バイナリ形式。
<b>bulkASCII</b>	ASCII (ヒト可読) 形式。
<b>schemaASCII</b>	追加のバルク統計情報スキーマ タグを含む ASCII 形式です。これはデフォルトです。

### コマンド デフォルト

デフォルトのバルク統計情報転送形式は schemaASCII です。

### コマンド モード

バルク統計情報転送コンフィギュレーション (config-bulk-tr)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.0(24)S	このコマンドが導入されました。
12.3(2)T	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.3(2)T に統合されました。
12.2(25)S	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(25)S に統合されました。
12.2(33)SRA	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRA に統合されました。
12.2(33)SXH	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SXH に統合されました。
12.2(33)SB	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SB に統合されました。
Cisco IOS XE Release 2.1	このコマンドが、Cisco IOS XE Release 2.1 に統合されました。

## 使用上のガイドラ

(注) Cisco IOS Release 12.0(24)S では、schemaASCII 形式のみサポートされます。そのリリースでは、このコマンドによってファイル形式は変更されません。

バルク統計情報データ ファイル (VFile) には、2 種類のフィールド (タグとデータ) が含まれています。タグは、データを区切ってフィールドを識別するために使用されます。その他のすべての情報はデータ フィールドにあります。

bulkASCII および bulkBinary 形式では、定期的なポーリングにより、単一のデータ グループ (オブジェクトリスト) を同じ VFile で複数回収集できます。データ グループの各インスタンスは、異なる「テーブル」タイプとして処理できます。

どのオブジェクトおよびテーブル タグにも、追加の sysUpTime フィールドが含まれます。同様に、各行のタグには、その行のデータが収集されたときの sysUpTime の値が含まれます。sysUpTime はデータのタイムスタンプを示します。

バルク統計情報データ ファイル形式の構造の詳細については、CISCO-DATA-COLLECTION-MIB の定義を参照してください。

## 例

次の例では、バルク統計情報データ ファイルは schemaASCII に設定されます。

```
Router(config)# snmp mib bulkstat transfer bulkstat1
Router(config-bulk-tr)# schema ATM2/0-IFMIB
Router(config-bulk-tr)# url primary ftp://user:pswr@host/folder/bulkstat1
Router(config-bulk-tr)# format schemaASCII
Router(config-bulk-tr)# exit
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>snmp mib bulkstat transfer</b>	バルク統計情報転送設定を指定し、バルク統計情報転送コンフィギュレーションモードを開始します。

## frequency (イベント トリガー)

トリガー サンプル間の間隔を指定するには、イベント トリガー コンフィギュレーション モードで **frequency** コマンドを使用します。設定した間隔をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**frequency** *seconds*

**no frequency**

### 構文の説明

<i>seconds</i>	2つのトリガーサンプル間の秒数。デフォルト値は 600 です。
----------------	---------------------------------

### コマンド デフォルト

トリガー サンプル間の間隔はデフォルト値に設定されます。

### コマンド モード

イベント トリガーコンフィギュレーション (config-event-trigger)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(20)T	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。
12.2(50)SY	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(50)SY に統合されました。

### 使用上のガイドライン

**frequency** コマンドはトリガー サンプル間の待機時間を設定します。デフォルトでは、オブジェクト サンプリングの頻度は 600 秒です。

### 例

次に、サンプリングの間隔として 360 秒を指定する例を示します。

```
Router(config)# snmp mib event trigger owner owner1 name triggerA
Router(config-event-trigger)# frequency 360
Router(config-event-trigger)# end
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>snmp mib event trigger owner</b>	管理イベントトリガー情報の設定中にイベントトリガーのオーナーを指定します。



## id (式)

オブジェクト ID を設定するには、式オブジェクト コンフィギュレーション モードで **id** コマンドを使用します。設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**id** *object-oid*

**no id**

### 構文の説明

<i>object-oid</i>	オブジェクトのオブジェクト ID。デフォルトは 0.0 です。
-------------------	---------------------------------

### コマンド デフォルト

デフォルトでは、オブジェクトのオブジェクト ID は設定されていません。

### コマンド モード

式オブジェクト コンフィギュレーション モード (config-expression-object)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(20)T	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。
15.0(1)S	このコマンドが、Cisco IOS Release 15.0(1)S に統合されました。
Cisco IOS XE Release 3.1S	このコマンドが、Cisco IOS XE Release 3.1S に統合されました。

### 例

次に、式オブジェクト コンフィギュレーション モードでオブジェクト ID を 2.2 に設定する例を示します。

```
Router(config)# snmp mib expression owner owner1 name expressionA
Router(config-expression)# object 3
Router(config-expression-object)# id 2.2
```

## instance (MIB)

バルク統計情報スキーマで使用する MIB オブジェクトを設定するには、バルク統計情報スキーマ コンフィギュレーションモードで **instance** コマンドを使用します。簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) バルク統計情報オブジェクトリストを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**instance** {**exact**|**wild**} {**interface** *interface-id* [**sub-if**]| **oid** *oid*}

**no instance**

### 構文の説明

<b>exact</b>	指定したインスタンス (インターフェイス、コントローラ、またはオブジェクト ID (OID)) をオブジェクトリストに追加する場合は、このスキーマで使用される完全な OIDであることを示します。
<b>wild</b>	指定したインターフェイス、コントローラ、または OID 範囲内にあるすべてのインスタンスをこのスキーマに含める必要があることを示します。
<b>interface</b>	スキーマに特定のインターフェイスまたはインターフェイス グループを指定します。
<i>interface-id</i>	特定のインターフェイスまたはインターフェイスグループのインターフェイス名および番号。
<b>sub-if</b>	(任意) メインインターフェイスのオブジェクトインスタンスに加えて、指定したインターフェイスまたはコントローラのすべてのサブインターフェイスについてオブジェクトインスタンスをポーリングする必要があることを指定します。
<b>oid</b>	OID を指定することを示します。
<i>oid</i>	オブジェクトリストに追加されている場合、モニタ対象のオブジェクトに対して完全な (またはワイルドカード) OID を指定するオブジェクト ID。

**コマンド デフォルト** デフォルトでは、バルク統計情報スキーマで使用される MIB オブジェクトインスタンスは設定されていません。

**コマンド モード** バルク統計情報スキーマ コンフィギュレーション (config-bulk-sc)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.0(24)S	このコマンドが導入されました。
	12.3(2)T	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.3(2)T に統合されました。
	12.2(25)S	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(25)S に統合されました。
	12.2(33)SRA	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRA に統合されました。
	12.2(33)SXH	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SXH に統合されました。
	12.2(33)SB	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SB に統合されました。
	Cisco IOS XE Release 2.1	このコマンドが、Cisco IOS XE Release 2.1 に統合されました。

**使用上のガイドライン** **instance** コマンドは、設定するスキーマ内のオブジェクトのインスタンス情報を指定します。データを収集する必要がある MIB オブジェクトの特定のインスタンスは、関連オブジェクトリストで指定されたオブジェクトに **instance** コマンドの値を追加することで決定されます。つまり、スキーマ **object-list** をスキーマ **instance** と組み合わせて、完全な MIB オブジェクト ID を指定します。

**instance exact** コマンドは、指定されたインスタンスが完全な OIDであることを示しています (オブジェクトリストに追加されている場合)。

**instance wild** コマンドは、指定した OID のすべてのサブインデックスがこのスキーマに属することを示しています。つまり、**wild** キーワードを使用すると、部分的なワイルドカードインスタンスを指定できます。

OID を指定する代わりに、特定のインターフェイスを指定できます。**interface interface-id** キーワードと引数を使用すると、インターフェイスの ifIndex OID を指定する代わりにインターフェイス名と番号 (例: FastEthernet 0) を指定できます。

オプションの **sub-if** キーワードには、指定したインターフェイスのすべてのサブインターフェイスに対する **ifIndex** が含まれます (インターフェイスまたはコントローラの指定後に追加された場合)。

1つのスキーマに設定できる **instance** コマンドは1つだけです

## 例

次に、ファストイーサネットインターフェイス 3/0 について (IF-MIB の) **ifInOctets** オブジェクトのバルク統計情報を収集するようにルータを設定する例を示します。この例では、3 はファストイーサネットインターフェイス 3/0 の **ifIndex** のインスタンスです。インスタンス (3) は、オブジェクトリスト (**ifIndex 1.3.6.1.2.1.2.2.1.1**) と組み合わせた場合、OID 1.3.6.1.2.1.2.2.1.1.3 に変換されます。

```
Router# configure terminal
Router(config)# snmp mib bulkstat object-list E0InOctets
! The following command specifies the object 1.3.6.1.2.1.2.2.1.1.3 (ifIndex)
Router(config-bulk-objects)# add ifIndex
Router(config-bulk-objects)# exit
Router(config)# snmp mib bulkstat schema E0
Router(config-bulk-sc)# object-list E0InOctets
! The following command is equivalent to "instance exact oid 3".
Router(config-bulk-sc)# instance exact interface FastEthernet 3/0
Router(config-bulk-sc)# exit
Router(config)# snmp mib bulkstat transfer bulkstat1
Router(config-bulk-tr)# schema E0
Router(config-bulk-tr)# url primary ftp://user:password@host/ftp/user/bulkstat1
Router(config-bulk-tr)# url secondary tftp://user@host/tftp/user/bulkstat1
Router(config-bulk-tr)# format schemaASCII
Router(config-bulk-tr)# transfer-interval 30
Router(config-bulk-tr)# retry 5
Router(config-bulk-tr)# enable
Router(config-bulk-tr)# exit
Router(config)# do copy running-config startup-config
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>object-list</b>	バルク統計情報スキーマで使用するバルク統計情報オブジェクトリストを設定します。
<b>snmp mib bulkstat schema</b>	SNMP バルク統計情報スキーマを指定し、バルク統計情報スキーマ コンフィギュレーションモードを開始します。

## instance range

特定のデータグループについて収集するインスタンスの範囲を指定するには、バルク統計情報スキーマコンフィギュレーションモードで **instance range** コマンドを使用します。以前に設定したインスタンスの範囲を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**instance range start oid end oid**

**no instance range start oid end oid**

### 構文の説明

<b>start</b>	範囲の先頭を示します。
<i>oid</i>	特定の範囲でモニタするオブジェクト ID。
<b>end</b>	範囲の終わりを示します。

### コマンドデフォルト

インスタンスの範囲は設定されていません。

### コマンドモード

バルク統計情報スキーマ コンフィギュレーション (config-bulk-sc)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(33)SRC	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SB	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SB に統合されました。
Cisco IOS XE Release 2.1	このコマンドが、Cisco IOS XE Release 2.1 に統合されました。

### 使用上のガイドライン

**instance range** コマンドは、**snmp mib bulkstat schema** コマンドと組み合わせて使用すると、データを収集するインスタンス範囲を設定できます。

## 例

次に、インスタンス 1 で始まり、インスタンス 2 で終わるすべてのインスタンスのデータの収集例を示します。

```
snmp mib bulkstat object-list ifmib
  add ifInOctets
  add ifOutOctets
  exit
!
snmp mib bulkstat schema IFMIB
  object-list ifmib
  poll-interval 1
  instance range start 1 end 2
  exit
!
snmp mib bulkstat transfer bulkstat1
  schema IFMIB
  url primary tftp://202.153.144.25/pcn/bulkstat1
  format schemaASCII
  transfer-interval 5
  retry 5
  buffer-size 1024
  retain 30
  enable
end
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>instance</b>	オブジェクトリストに追加されている場合にバルク統計情報スキーマでモニタ対象のオブジェクトインスタンスの OID を与えるインスタンスを指定します。
<b>snmp mib bulkstat schema</b>	バルク統計情報スキーマを指定し、バルク統計情報スキーマ コンフィギュレーション モードを開始します。

## instance repetition

データの収集を MIB オブジェクトの特定のインスタンスで開始し、インスタンスの数だけ繰り返すように設定するには、バルク統計情報スキーマ コンフィギュレーション モードで **instance repetition** コマンドを使用します。以前に設定したインスタンスの繰り返しの削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**instance repetition** *oid-instance* **max** *repeat-number*

**no instance repetition**

### 構文の説明

<i>oid-instance</i>	モニタ対象のインスタンスのオブジェクト ID。
<b>max</b> <i>repeat-number</i>	インスタンスを繰り返す回数を指定します。

### コマンド デフォルト

インスタンスの繰り返しは設定されていません。

### コマンド モード

バルク統計情報スキーマ コンフィギュレーション (config-bulk-sc)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(33)SRC	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SB	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SB に統合されました。
12.4(20)T	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.4(20)T に統合されました。
Cisco IOS XE Release 2.1	このコマンドが、Cisco IOS XE Release 2.1 に統合されました。

### 使用上のガイドライン

(任意) **instance repetition** コマンドは、**snmp mib bulkstat schema** コマンドと組み合わせて使用すると、MIB オブジェクトの一定数のインスタンスに対してデータ収集を繰り返すよう設定できます。

## 例

次に、最初のインスタンスでデータ収集を開始し、表示された MIB オブジェクトの 4 つのインスタンスについて繰り返す例を示します。

```
snmp mib bulkstat object-list ifmib
  add ifOutOctets
  add ifInOctets
snmp mib bulkstat schema IFMIB
  object-list ifmib
  poll-interval 1
  instance repetition 1 max 4
snmp mib bulkstat transfer bulkstat1
  schema IFMIB
  transfer-interval 5
  retain 30
  retry 5
  buffer-size 1024
  enable
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>instance</b>	オブジェクトリストに追加されている場合にバルク統計情報スキーマでモニタ対象のオブジェクトインスタンスの OID を与えるインスタンスを指定します。
<b>snmp mib bulkstat schema</b>	バルク統計情報スキーマを指定し、バルク統計情報スキーマ コンフィギュレーション モードを開始します。



## no snmp-server

簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) エージェント動作をディセーブルにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **no snmp-server** コマンドを使用します。

### no snmp-server

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

#### コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
10.0	このコマンドが導入されました。

#### 使用上のガイドライン

このコマンドは、デバイスで稼働しているすべてのバージョンの SNMP (SNMPv1、SNMPv2C、および SNMPv3) をディセーブルにします。

#### 例

次に、SNMP の現在の実行バージョンをディセーブルにする例を示します。

```
Router(config)# no snmp-server
```

## object (式)

式の評価中に使用するオブジェクトを指定するには、式コンフィギュレーションモードで **object** コマンドを使用します。設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**object** *object-number*

**no object** *object-number*

### 構文の説明

<i>object-number</i>	式の評価中に変数に関連付けられるオブジェクト番号。
----------------------	---------------------------

### コマンド デフォルト

オブジェクトは、デフォルトでは式の評価用に設定されていません。

### コマンド モード

式コンフィギュレーション (config-expression)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(20)T	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。
12.2(50)SY	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(50)SY に統合されました。

### 使用上のガイドライン

*object-number* 引数は、式内の変数にオブジェクトに関連付けます。オブジェクトに対応する変数には、\$ (ドル記号) およびオブジェクト番号が含まれます。たとえば、オブジェクト番号は1、変数は\$1です。 **object** コマンドは、式の複数のオブジェクトまたは変数の定義に複数回使用できます。

### 例

次に、式で使用されるオブジェクトを指定する例を示します。

```
Router(config)# snmp mib expression owner owner1 name expression1
Router(config-expression)# object 10
Router(config-expression)# end
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>snmp mib expression owner</b>	式を指定します。

## object id

イベントに関連付けるオブジェクトのオブジェクト ID を指定するには、イベント オブジェクト リスト、イベント アクション通知、イベント アクションセット、またはイベント トリガー コンフィギュレーションモードで **object id** コマンドを使用します。設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**object id** *object-identifier*

**no object id**

### 構文の説明

<i>object-identifier</i>	オブジェクトのオブジェクト ID。デフォルトは 0.0 です。
--------------------------	---------------------------------

### コマンド デフォルト

デフォルトでは、オブジェクト ID は指定されていません。

### コマンド モード

イベント オブジェクト リスト コンフィギュレーション (config-event-objlist)  
 イベント アクション通知コンフィギュレーション (config-event-action-notification)  
 イベント アクションセット コンフィギュレーション (config-event-action-set)  
 イベント トリガーコンフィギュレーション (config-event-trigger)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(20)T	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。
12.2(50)SY	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(50)SY に統合されました。

### 使用上のガイドライン

**object id** コマンドは、イベントに関連付けるオブジェクトのオブジェクト ID を指定します。イベントの通知がイネーブルになっている場合、オブジェクトに変更が加えられるたびに、通知が送信されます。

## 例

次に、イベントオブジェクトリスト コンフィギュレーション モードでオブジェクト ID を 2.2 に設定する例を示します。

```
Router(config)# snmp mib event owner owner1 name eventA
Router(config-event)# snmp mib event object list owner owner1 name objectA 10
Router(config-event-objlist)# object id 2.2
Router(config-event-objlist)# end
```

次に、イベントアクション通知コンフィギュレーション モードでオブジェクト ID を 2.2 に設定する例を示します。

```
Router(config)# snmp mib event owner owner1 name eventA
Router(config-event)# action notification
Router(config-event-action-notification)# object id 2.2
Router(config-event-action-notification)# end
```

次に、イベントアクションセット コンフィギュレーション モードでオブジェクト ID を 2.2 に設定する例を示します。

```
Router(config)# snmp mib event owner owner1 name eventA
Router(config-event)# action set
Router(config-event-action-set)# object id 2.2
Router(config-event-action-set)# end
```

次に、イベントトリガー コンフィギュレーション モードでオブジェクト ID を 2.2 に設定する例を示します。

```
Router(config)# snmp mib event trigger owner owner1 name triggerA
Router(config-event-trigger)# object id 2.2
Router(config-event-trigger)# end
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>action</b>	イベントに対するアクションを設定します。
<b>snmp mib event object list</b>	オブジェクトのリストを設定します。
<b>snmp mib event trigger owner</b>	イベント トリガーのオーナーを指定します。

## object id (イベントトリガー)

オブジェクトのオブジェクト ID を指定するには、イベントトリガー コンフィギュレーションモードで **object id** コマンドを使用します。

**object id** *object-identifier*

### 構文の説明

<i>object-identifier</i>	オブジェクトのオブジェクト ID。
--------------------------	-------------------

### コマンド デフォルト

このコマンドは、デフォルトでイネーブルになっています。

### コマンド モード

イベントトリガーコンフィギュレーション (config-event-trigger)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(20)T	このコマンドが導入されました。
12.2(50)SY	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(50)SY に統合されました。

### 使用上のガイドライン

**object id** コマンドは、イベントトリガーに対して設定するオブジェクトのオブジェクト ID を指定します。オブジェクト ID のデフォルト値は **0.0** です。

### 例

次に、**object id** コマンドを使用してオブジェクト ID を指定する例を示します。

```
Router(config)# snmp mib event trigger owner John name triggerA
Router(config-event-trigger)# object id 2.2
Router(config-event-trigger)#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>snmp mib event trigger owner</b>	イベントトリガーのオーナー名を指定します。このコマンドは、イベントトリガー コンフィギュレーションモードもイネーブルにします。



## object list

イベント中のオブジェクトのリストを設定するには、イベントトリガー、イベントアクション通知、イベントトリガー存在、イベントトリガーブール値、またはイベントトリガーしきい値コンフィギュレーションモードで **object list** コマンドを使用します。設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**object list** *owner object-list-owner* **name** *object-list-name*

**no object list**

### 構文の説明

<b>owner</b>	オブジェクトリストのオーナーを示します。
<i>object-list-owner</i>	オブジェクトリストのオーナー名。
<b>name</b>	オブジェクトリストの名前を示します。
<i>object-list-name</i>	オブジェクトリストを識別する一意の名前。

### コマンド デフォルト

オブジェクトリストは設定されません。

### コマンド モード

イベントトリガーコンフィギュレーション (config-event-trigger)

イベントアクション通知コンフィギュレーション (config-event-action-notification)

イベントトリガー存在コンフィギュレーション (config-event-trigger-existence)

イベントトリガーブール値コンフィギュレーション (config-event-trigger-boolean)

イベントトリガーしきい値コンフィギュレーション (config-event-trigger-threshold)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(20)T	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。
12.2(50)SY	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(50)SY に統合されました。



例 次に、イベントトリガーのオブジェクトリストを指定する例を示します。

```
Router(config)# snmp mib event trigger owner owner1 name triggerA
Router(config-event-trigger)# object list owner owner1 name objectA
Router(config-event-trigger)# end
```

次に、アクション通知用のオブジェクトリストを指定する例を示します。

```
Router(config)# snmp mib event owner owner1 name eventA
Router(config-event)# action notification
Router(config-event-action-notification)# object list owner owner1 name objectA
Router(config-event-action-notification)# end
```

次に、存在トリガーテスト用のオブジェクトリストを指定する例を示します。

```
Router(config-event-trigger)# test existence
Router(config-event-trigger-existence)# object list owner owner1 name objectA
Router(config-event-trigger-existence)# end
```

次に、ブール値トリガーテスト用のオブジェクトリストを指定する例を示します。

```
Router(config-event-trigger)# test boolean
Router(config-event-trigger-boolean)# object list owner owner1 name objectA
Router(config-event-trigger-boolean)# end
```

次に、しきい値トリガーテスト用のオブジェクトリストを指定する例を示します。

```
Router(config-event-trigger)# test threshold
Router(config-event-trigger-threshold)# object list owner owner1 name objectA
Router(config-event-trigger-threshold)# end
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>snmp mib event trigger owner</b>	管理イベントトリガー情報の設定中にイベントトリガーのオーナーを指定します。
<b>test</b>	トリガーテストをイネーブルにします。

## object-list

バルク統計情報スキーマで使用されるバルク統計情報オブジェクトリストを指定するには、バルク統計情報スキーマ コンフィギュレーション モードで **object-list** コマンドを使用します。スキーマからオブジェクト リストを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**object-list** *list-name*

**no object-list**

### 構文の説明

<i>list-name</i>	以前に設定したバルク統計情報オブジェクトリストの名前。
------------------	-----------------------------

### コマンド デフォルト

バルク統計情報オブジェクト リストは指定されません。

### コマンド モード

バルク統計情報スキーマ コンフィギュレーション (config-bulk-sc)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.0(24)S	このコマンドが導入されました。
12.3(2)T	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.3(2)T に統合されました。
12.2(25)S	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(25)S に統合されました。
12.2(33)SRA	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRA に統合されました。
12.2(33)SXH	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SXH に統合されました。
12.2(33)SRC	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRC に統合されました。
Cisco IOS XE Release 2.1	このコマンドが、Cisco IOS XE Release 2.1 に統合されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドは、設定するスキーマにバルク統計情報オブジェクトリストを関連付けます。オブジェクトリストには、モニタ対象の MIB オブジェクトのリストを含める必要があります。

1つのオブジェクトリストだけを各スキーマに指定できます。

**例** 次の例では、E0InOctets という名前のオブジェクトリストが E0 という名前のスキーマに関連付けられます。

```
Router(config)# snmp mib bulkstat schema E0
Router(config-bulk-sc)# object-list E0InOctets
Router(config-bulk-sc)# instance exact interface FastEthernet 3/0
Router(config-bulk-sc)# exit
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>instance</b>	オブジェクトリストに追加されている場合にバルク統計情報スキーマでモニタ対象のオブジェクトインスタンスの OID を与えるインスタンスを指定します。
<b>snmp mib bulkstat schema</b>	バルク統計情報スキーマを指定し、バルク統計情報スキーマ コンフィギュレーション モードを開始します。

## poll-interval

バルク統計情報スキーマのポーリング間隔を設定するには、バルク統計情報スキーマ コンフィギュレーション モードで **poll-interval** コマンドを使用します。以前に設定したポーリング間隔を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**poll-interval** *minutes*

**no poll-interval**

### 構文の説明

<i>minutes</i>	このスキーマのデータのポーリング間隔を分単位で指定する 1～20000 の範囲の整数。デフォルト値は 5 です。
----------------	--

### コマンド デフォルト

オブジェクト インスタンスは 5 分ごとに一度ポーリングされます。

### コマンド モード

バルク統計情報スキーマ コンフィギュレーション (config-bulk-sc)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.0(24)S	このコマンドが導入されました。
12.3(2)T	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.3(2)T に統合されました。
12.2(25)S	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(25)S に統合されました。
12.2(33)SRA	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRA に統合されました。
12.2(33)SXH	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SXH に統合されました。
12.2(33)SB	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SB に統合されました。
Cisco IOS XE Release 2.1	このコマンドが、Cisco IOS XE Release 2.1 に統合されました。

**使用上のガイドライン** **poll-interval** コマンドでは、スキーマおよび関連オブジェクトリストで指定された MIB インスタンスがポーリングされる間隔を設定します。収集されたデータは、後で転送するためにローカルのバルク統計情報ファイルに保存されます。

**例** 次の例では、FastEthernet2/1-CAR というスキーマでバルク統計情報収集のポーリング間隔が 3 分に設定されます。

```
Router(config)# snmp mib bulkstat schema FastEthernet2/1-CAR
Router(config-bulk-sc)# object-list CAR-mib
Router(config-bulk-sc)# poll-interval 3
Router(config-bulk-sc)# instance wildcard oid 3.1
Router(config-bulk-sc)# exit
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>snmp mib bulkstat schema</b>	バルク統計情報スキーマを指定し、バルク統計情報スキーマ コンフィギュレーション モードを開始します。

## prefix object

アプリケーションがインスタンス インデックスに基づいてオブジェクトを特定できるようにするには、式オブジェクト コンフィギュレーション モードで **prefix object** コマンドを使用します。

**prefix object** *object-id*

### 構文の説明

object-id	オブジェクトのオブジェクト ID。
-----------	-------------------

### コマンド デフォルト

オブジェクトには、デフォルトでプレフィックスは付加されません。

### コマンド モード

式オブジェクト コンフィギュレーション (config-expression-object)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(20)T	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

**prefix object** コマンドは、アプリケーションがインスタンス インデックスに従ってオブジェクトを特定できるようにします。インスタンスインデックスは `expValueTable` で使用されます。**prefix object** コマンドを使用すると、プレフィックスを特定するために `expObjectTable` をスキャンする必要がなくなるため、アプリケーションの負荷が軽減されます。

### 例

次に、プレフィックス オブジェクトを指定する例を示します。

```
Router(config)# snmp mib expression owner John name ExpressionA
Router(config-expression)# object
Router(config-expression-object)# prefix object 0.0.6
Router(config-expression-object)#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>snmp mib expression owner</b>	式のオーナーを指定します。

# retain

バルク統計情報ファイルの保持間隔を設定するには、バルク統計情報転送コンフィギュレーションモードで **retain** コマンドを使用します。以前に設定した保持間隔をコンフィギュレーションから削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**retain** *minutes*

**no retain**

## 構文の説明

<i>minutes</i>	ローカルのバルク統計情報ファイルをシステムメモリに保持する分単位の時間の長さ（保持間隔）。有効な範囲は 0 ~ 20000 です。デフォルトは 0 です。
----------------	---

## コマンド デフォルト

バルク統計情報ファイルの保持間隔は 0 分です。

## コマンド モード

バルク統計情報転送コンフィギュレーション (config-bulk-tr)

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.0(24)S	このコマンドが導入されました。
12.3(2)T	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.3(2)T に統合されました。
12.2(25)S	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(25)S に統合されました。
12.2(33)SRA	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRA に統合されました。
12.2(33)SXH	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SXH に統合されました。
12.2(33)SB	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SB に統合されました。
Cisco IOS XE Release 2.1	このコマンドが、Cisco IOS XE Release 2.1 に統合されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドでは、収集間隔と転送試行の設定が完了した後、バルク統計情報ファイルをシステムメモリに保存する期間を分単位で指定します。デフォルト値ゼロ (0) は、ファイルの転送に成功した後でローカルメモリからただちにファイルが削除されることを示します。

**retry** コマンドを使用する場合、保持間隔を0よりも大きく設定する必要があります。再試行の間隔は、保持間隔を再試行回数で割ったものです。たとえば、**retain 10** と **retry 2** を設定した場合、再試行は5分に1回行われます。したがって、**retain** コマンドを設定しない場合 (**retain** のデフォルトは0)、再試行は行われません。

**例** 次の例では、バルク統計情報転送の保持間隔は10分に設定されます。

```
Router(config)# snmp mib bulkstat transfer bulkstat1
Router(config-bulk-tr)# schema ATM2/0-IFMIB
Router(config-bulk-tr)# url primary ftp://user:pswr@host/folder/bulkstat1
Router(config-bulk-tr)# retry 2
Router(config-bulk-tr)# retain 10
Router(config-bulk-tr)# exit
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>retry</b>	バルク統計情報ファイルの送信を試行する回数を設定します。
<b>snmp mib bulkstat transfer</b>	転送設定を名前で識別し、バルク統計情報転送コンフィギュレーションモードを開始します。



## retry (bulkstat)

バルク統計情報ファイルの転送を試行する回数を設定するには、バルク統計情報転送コンフィギュレーションモードで **retry** コマンドを使用します。バルク統計情報の再試行をデフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**retry number**

**no retry**

### 構文の説明

<i>number</i>	送信再試行回数。有効範囲は 0 ~ 100 です。
---------------	---------------------------

### コマンド デフォルト

再試行は行われません。

### コマンド モード

バルク統計情報転送コンフィギュレーション (config-bulk-tr)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.0(24)S	このコマンドが導入されました。
12.3(2)T	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.3(2)T に統合されました。
12.2(25)S	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(25)S に統合されました。
12.2(33)SRA	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRA に統合されました。
12.2(33)SXH	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SXH に統合されました。
12.2(33)SB	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SB に統合されました。
Cisco IOS XE Release 2.1	このコマンドが、Cisco IOS XE Release 2.1 に統合されました。

### 使用上のガイドライン

バルク統計情報ファイルを送信しようとして失敗した場合に、**retry** コマンドを使用してファイルの再送信を試みるように設定できます。1回の再試行で、最初にプライマリ宛先への送信を試み、転送が失敗した場合は、次にセカンダリ宛先への送信を試みます。たとえば、再試行値が 1 の場

合、最初にプライマリ URL への送信、次にセカンダリ URL への送信を試みた後、再びプライマリ URL への送信、次にセカンダリ URL への送信を試みます。

**retry** コマンドを使用する場合、**retain** コマンドも使用して保持間隔を 0 よりも大きく設定する必要があります。再試行の間隔は、保持間隔を再試行回数で割ったものです。たとえば、**retain 10** と **retry 2** を設定した場合、再試行は 5 分に 1 回行われます。したがって、**retain** コマンドを設定しない場合（または **retain 0** コマンドを使用する場合）、再試行は行われません。

## 例

次の例では、バルク統計情報転送の再試行回数は 2 に設定されます。

```
Router(config)# snmp mib bulkstat transfer bulkstat1
Router(config-bulk-tr)# schema ATM2/0-IFMIB
Router(config-bulk-tr)# url primary ftp://user:pswr@host/folder/bulkstat1
Router(config-bulk-tr)# retry 2
Router(config-bulk-tr)# retain 10
Router(config-bulk-tr)# exit
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>retain</b>	バルク統計情報ファイルのローカル システムメモリ (NVRAM) に保持間隔を設定します。
<b>snmp mib bulkstat transfer</b>	転送設定を名前で識別し、バルク統計情報転送コンフィギュレーションモードを開始します。

## rising (しきい値テスト)

上昇しきい値トリガーのイベントオーナーを指定するには、イベントトリガーしきい値コンフィギュレーションモードで **rising event owner** コマンドを使用します。設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**rising** {*threshold-value*| **event owner** *event-owner name event-name*}

**no rising**

### 構文の説明

<i>threshold-value</i>	上昇しきい値を指定する数値。デフォルト値は 0 です
<b>event</b>	イベントを指定します。
<b>owner</b>	イベントのオーナーを指定します。
<i>event-owner</i>	イベントのオーナー。
<b>name</b>	イベントの名前を指定します。
<i>event-name</i>	イベントの一意の名前。

### コマンド デフォルト

デフォルトの上昇しきい値は 0 です。イベントはデフォルトでは呼び出されません。

### コマンド モード

イベント トリガーしきい値コンフィギュレーション (config-event-trigger-threshold)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(20)T	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。
12.2(50)SY	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(50)SY に統合されました。

**使用上のガイドライン** **rising** コマンドは、上昇しきい値がトリガーされたときに実行されるイベントを指定します。イベントは、オーナーおよび名前によって識別され、**snmp mib event owner** コマンドを使用して設定されます。

**例** 次に、上昇しきい値トリガーのイベント オーナーを指定する例を示します。

```
Router(config)# snmp mib event trigger owner owner1 name triggerA
Router(config-event-trigger)# test threshold
Router(config-event-trigger-threshold)# rising event owner owner1 name event5
Router(config-event-trigger-threshold)# end
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>test</b>	トリガー テストをイネーブルにします。